

図書館だより

12月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	④	5	6	7	8	9
10	⑪	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	⑳
24	㉕	26	㉗	㉘	㉙	㉚
31						

○印 休館日 月曜日・祝日(23日)
 年末年始休館(12月28日～1月5日)
 月末館内整理日(27日)

聖樹灯り水のごとくに月夜かな
 蛇笏

十二月二十五日、キリストがベツレヘムの厩で誕生の日である。

聖書も聖伝もその年月日を伝えていないが、ローマ教会でこの日を主の降誕の祝日と定めた。前夜をクリスマススイヴ訳して聖夜と言いい、教会でも家庭でもクリスマスツリーとして聖樹と言って、樅の木に金糸銀糸を飾り、灯を点じ、七面鳥料理を食べ、クリスマスカードやクリスマスプレゼントを贈り合い、楽しく明るく祝う。サンタクロースは聖ニコルスという慈悲深い老人の名を訛り伝えたものと言いい、クリスマス前夜にトナカイのそりに乗って世界中を回り、煙突からはいって子どもたちへの贈物を靴下の中へ入れて行くと言われている。

『最新俳句歳時記』より

今月の新刊図書案内

*一般図書

この考え方があなたの人生を決める
 日本人の女神信仰 松原泰道
 大仏再建 吉田敦彦
 ローマ人の物語 4 五味文彦
 二度とは言えない夫への「ありがとう」 塩野七生
 根岸康雄
 幾山河 瀬島龍三
 ここを変革すれば日本は必ずよくなる 愛知和男
 日米大不況は来るか 瀬島龍三
 ポール・アードマン 郵便局ゆうゆう活用術 小野英子
 日本人の行動文法(ソシオグラマ) 竹内靖雄
 女にしかわからない 井上一馬
 入浴の女王 杉浦日向子
 動物の心 杉浦日向子
 ドナルド・R・グリフィン 飲みもの健康法 誠文堂新光社
 自動車への愛 ヴォルフガング・ザックス
 すぐにごはんの手間なしクッキング グ 村上祥子
 私にもできる!家中のメンテナンスとリフォーム ハンディー・ウーマン
 だれでもできる盆栽作り教室 盆栽編集部
 写真から/写真へ 森山大道
 世阿弥は天才である 三宅晶子
 松本 松本人志
 中・高年からの健康体力づくり体操 鈴木正之

*児童図書

学校がたのしくなる心理ゲーム
 新聞で調べよう現代日本の50年 1~5
 からだとこころのなんでも百科 田んぼの生き物たち
 空気ひみつはっけん くりすまのお菓子
 どんぐりノート
 ふうみん池にワニがでた
 キイチちゃんのはらひめ
 まけるなしんちゃん
 まんげつ小学校の夜
 モーツアルトの伝言
 パパとのぼった木
 ぶたばあちゃん
 あらしのひ
 ぶな森のなかまたち
 どんくまさんやったね
 しろいゆきあかるいゆき
 外七十九冊

教育相談のご案内

日時 毎週 月～金曜日
 午前9時～午後4時
 場所 都留市教育研修センター
 教育相談室(文化会館一階)
 ☎(43) 1323
 FAX(43) 1322
 ※秘密は厳守します。

心の健康シリーズ(32)

言葉は人をつくり 言葉は体をあらわす

人づき合いにおいて「あいさつ」は、コミュニケーションの大切なきっかけです。ところが最近、あいさつがまともにできない子が増えています。

小学生も学校という社会の一員です。学校社会の中でも人からよく深く理解されるように努力し、また自分でも人を大切にします。

そういう人間社会の根本原理を教えることは大切なことです。状況にふさわしい言葉、自分の気持ちに合った言葉を選べる子は、会話の中から相手の気持ちをくみとり、思いやりを持てるものです。

つまり、礼儀やエチケットの大切さは、単なる社会的慣習やお上品なマナーを覚えることではありません。

「小さな社会人」として、人間関係の機微を敏感に悟るに足る感受性や言葉のセンスに磨きをかけることに意味があるのです。

これを身につけないまま大人になってしまったら、それは親の責任です。

あいさつは、コミュニケーションの始まりです。にこやかな笑顔であいさつができるだけで、まわりの人をあたたかい気持ちにしてくれます。

元氣よく「おはよう」が言える子、ちょっとした親切にも素直に

「ありがとう」が言える子。たった一言でも、その時の心のあり方が見えて来ます。

子どもには、上手下手はまだ必要ありません。はっきりと言えて、感謝やわびの気持ちを素直に言えるかどうかが大切なのです。

あいさつは、人づきあいに欠かせないエチケット。このエチケットを身につけさせるためには、日ごろからの習慣づけが必要です。

もちろん、言い聞かせるだけでは効果がありません。頭ごなしに叱るばかりだと、むしろ逆効果になります。まず、親が率先して声をかけ、手本を示さなくてはなりません。

あいさつがきちんとできる子の家庭は、家族みんながあいさつする習慣ができています。

言葉使いもきちんと使わなければならないように、子どもだからといって、何でも許されるわけではありません。

言葉使いにしても、言っていることと悪いこと、相手や場所をわきまえるのは必要なことです。

よく先生や目上の人と話すのに友達言葉や流行語などで話しているのを見かけますが、あまり感じのよいものではありません。相手や場所によっては失礼になります。

幼少から、こうした言葉使いや礼儀を理解させることによって、自立心は向上し、何事にも理解よく自分をわきまえた行動のできる子に育っていきます。